

2019 年度 小委員会活動成果報告

(2020 年 2 月 13 日作成)

小委員会名	コミュニティ居住小委員会	主 査 名：藤岡 泰寛 就任年月：2018 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	建築計画委員会 (住宅計画運営委員会)	委員長名：広田 直行 主 査 名：清水 郁郎
設 置 期 間	2018 年 4 月 ～ 2020 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>居住の安定を成り立たせる条件や、居住形態のあり方について横断的な議論を行う。各地の特徴的な居住課題をとりあげながら、ハード・ソフト両面の知見と課題を得る。</p> <p>初年度：「居住の多様化」をふまえた、対象地域、事例等の見学と意見交換を通じて、「居住の安定」を可能たらしめる研究・実務の枠組みについて議論する。</p> <p>2 年度：2019 年度前半を目処に、これまでの小委員会での議論や活動成果をまとめた書籍等の出版に向けた議論を行う。</p> <p>3 年度：</p> <p>4 年度：</p>	
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：有	
	主査：藤岡泰寛 横浜国立大学 幹事：安武敦子 長崎大学 委員：新井信幸 東北工業大学 阿部俊彦 早稲田大学、LLC 住まい・まちづくりデザインワークス 真野洋介 東京工業大学 小杉 学 東北工業大学 川崎興太 福島大学 森重幸子 京都大学大学院工学研究科建築学専攻研究員 牧野唯 日本工業大学 吉田哲 京都大学 後藤智香子 柏の葉アーバンデザインセンター・ディレクター	
設置 WG (WG 名：目的)	災害復興過程の持続的居住 WG 本ワーキンググループでは、復興に向かう過渡期における被災地での居住の多様な選択肢やリダンダンシー（冗長性）の確保を目的とした議論・提言を行う。	
2019 年度予算	135,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：無

項 目	自 己 評 価
委員会開催数	1 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画	公開研究会 (2020 年 3 月 13 日開催予定、建築 CPD 申請中) 住宅地における場のコミュニティ再編を考える - これからの大家と事業者と居住者の関係性から -
大会研究集会	
対外的意見表明・パ ブリックコメント等	

<p style="text-align: center;">目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)</p>	<p>2019年度において達成した成果（一部予定含む）は以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. これまでの小委員会における活動が評価され、「よこはま団地再生コンソーシアム」（横浜市、神奈川県、UR、横浜市住宅供給公社、神奈川県住宅供給公社、住宅金融支援機構が連携して2016年12月に発足）と協働して、市内の特色ある取り組みをしている住宅団地の専門家評価を担った。2019年11月、小委員会メンバー3名で順次視察を実施し外部有識者として協力した。（評価結果をふまえて2020年2月15日よこはま団地再生コンソーシアム第3回シンポジウムが開催予定） 2. 2019年12月、小委員会メンバー5名が参加し、近畿大学寺川政司准教授コーディネートのもと、大阪で進む多様な住居系用途の空き家リノベーション事例（若者シェアハウス、異世代シェア、住宅付き就労支援、等）の取り組みを視察した。 3. これまでの成果をふまえて、2020年3月13日に公開研究会（住宅地における場のコミュニティ再編を考えるーこれからの大家と事業者と居住者の関係性からー）を開催予定。住宅地において、生活者目線で住環境の価値を発掘・開発するための技術と、多様な取り組みの編集・再編集の技術が必要とされるなかで、先駆的な取り組みの事例紹介を得ながら住宅地におけるこれからのコミュニティ空間のあり方について議論する予定である。
<p>委員会活動の問題点・課題</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大会集会の企画実施 2. 小委員会の開催（地方の研究者が多いため、見学会や公開研究会開催にあわせて小委員会開催が認められない現状では、わざわざ2時間の小委員会開催のために田町に集まること自体が難しい）